

C up ワールド

2002 年8・9合併号

2002 年7月の山行記録

自主山行 鷹ノ巣谷(沢登り) 7月7日

参加者

茨木嘉道(L)・長田幸子(SL)・渡部吉実・吉国好道・矢沢悦子

天候 気温

薄曇り時々晴。
平年並み。

コース・行程の概要

7:00 奥多摩駅前集合
→ 車で東日原岳嶺岩下り口迄移動
→ 8:20 鷹ノ巣谷出合から遡行開始
→ 11:00 大滝着 → 金左小屋窪 → 石尾根
→ 15:00 鷹ノ巣山
→ 18:00 東日原岳嶺岩下り口着→車→奥多摩駅

コースの核心 講習のポイント

20m大滝でのザイルワーク、三点確保と 確実なセルフビレイの取り方ができるか。

報告者のひとこと感想

20m大滝は岩そのものは日和田山に比べ容易であり、ホールド・スタンスも豊富ありました。しかし高さが20mあり、水流から時折ふきつけるしぶきもありますので、ザイルを出し、セルフビレイをとった上1人1人登りました。但しスピードを考えるとパーティー5人のうち、中3人はプルージックで登ることも可能であったかなと思いました。また20m大滝を登った後、仕事道が使用できれば、出合迄大幅な時間短縮で戻れたのですが、今はその仕事道も廃道となっていましたので、止むを得ず鷹ノ巣山經由稲村尾根を下降し出合に戻りましたので、

沢の詰めでのヤブこぎも加わり(予め時間のかかるのを想定し、前日は奥多摩駅近くのキャンプ場にも泊まったメンバーもいたのですが) 登りよりも下りに時間を費やしてしまいました。今回のようなコースは日の長い春から夏でないといけないと感じた次第です。

報告者 茨木嘉道



講習山行 沢登りと友達になる会 奥多摩・逆川 7月21日

参加者

伊藤稔・長田幸子・矢沢悦子・南谷やすえ・末木俊之・新井元治・新井かよ子・横川秀樹・片岡和則・伊藤幸雄・柳澤栄一(本科生) 関根勝美・石井克人・轟一騎・三木俊一郎・池田新太郎(ゲスト) 幡鎌亮一(同人) 工藤寿人(講師)
計18名

天候 気温

晴れ
平年並み

コース・行程の概要

奥多摩駅から東日原行きバス乗車、川乗橋で下車徒歩30分が入渓点。
幾つかの小滝を過ぎ、F1-2 段 11M を水浸しで登

るところから本格的な遡行の開始。
その後、ナメ滝を越え、核心部の3~4Mの連続滝に入る。
その後も幾つかの滝を越えて最後の10Mの大滝を登り、ウスバ林道を通って青梅線鳩ノ巣駅に至る。

コースの核心 講習のポイント

積極的に水に入り、シャーワークライムを味わう。
暑い日であったので最高!
特に3~4Mの連続滝部は釜も深く泳ぎながらスタンスとホールドを求める。
手探り、足探りでの取っ付き探しはチョットしたスリルでした。
最後の10M大滝はザイルを使用して登る。
沢でのロープワークを学び、安全で確実な登りにあわせメンバー全体の団結力を知る。

感想

自分はあまり泳ぎは得意でないので積極的に水に入る事が心配でしたが、一旦水に触れるとそんな事は忘れてしまい、どんどんシャワーを浴びて登ってしまいました。
心配した泳ぎもリュックが浮き袋になり、チョットした「流れるプール」気分になったのですが、釜から出る瞬間のあの水の重みはホールドした手を震えさせました。
最後の10Mの大滝では、新井婦人がスムーズなリードをしてルートを確認してくれました。
ただ、下で心配そうに旦那が「まだ、あいつに死なれてはこまる」とポツリと言った言葉が印象的で夫婦の仲の良さを垣間見る事ができたように思いました。
夏の暑い日はやはり、沢登りに限る。

報告者 伊藤 幸雄



講習山行

日和田(岩登りトレーニング)

7月27日、28日

参加者

- 1日目 横川秀樹(L)、坂本由以(SL)、田口浩昭、山野昭人、山野美香、浅子裕子、福田洋子
2日目 福田洋子(L)、山野昭人(SL)、山野美香、横川秀樹、田口浩昭、柳澤栄一、浅子裕子

講習のポイント

<初めての自主トレーニング>

- 1日目 トップロープのセット方法の確認
男岩の南面・西面でトップロープ・クライミング
2日目 女岩南面でトップロープ・クライミング、および懸垂下降
男岩の南面・西面でトップロープ・クライミング

感想

1日目 初日は朝9時頃にゲレンデ着。子供岩でトップロープのセット方法を確認してから男岩に移動。南面に1本、西面に2本ロープを張る。最初は2班に分かれ、西面左側のルート(V:上部左のクラックへ抜ける)と西面やや右よりのルート(コーナー沿いに右上へ進み、松ノ木テラスからは左にトラバース)に挑戦。あまりの暑さにしたたる汗をぬぐいながら、1~2回のトライでほぼ全員がそれぞれのルートを攻略。昼食をはさみ午後からは、南面の右ルート(IV+)と中央クラックルート(IV+)を登る。ただ、この日は暑さが厳しかったため、予定より早めの3時には練習終了とし撤収した。(報告者 H・Y)
2日目 前日よりかなり暑さが和らいだ、日曜日という事もあって駅前には他のグループ(我が山塾の工藤講師率いる日和田③のメンバーも)も続々降りてくる、急いで岩場に行き支点を確保しなくてはと早足にて直行。なにせ我々はまだトップロープなしでは降りたり登ったりできないしその支点をセットするのがまた試行錯誤の連続だから時間が他のグループの倍以上かかってしまうのだ。それでもなんとか男岩の南面・西面に横川・柳澤で1本、山野(2人)で1本、女岩南面には浅子・田口が行きセット完了、実際のクライミングの練習より神経を使う。2手に分かれてクライミングの練習に入る。昨日の今日ということもあってビレイやロープワークも少しはさまになってきたように思う。ひとつ々の動作の確認とそれぞれが各ルートの攻略を考えながらチャレンジを繰り返していると回りはロープでいっぱいになっている。他のロープを侵害しないようにな

るだけ自分のロープのラインを直上しようと思うと
いがいに難しくいかにやさしいラインに逃げていた
か実感した。午後は懸垂下降の練習とクライムダウン
も汲み入れ充実した1日となった。家に帰りガイド
ブックで登ったルートグレードを確認、IVから
Vといったところ。未熟さを確認。沢や岩のパリエ
ーションへの道はかなり遠い。でもそれに一步踏み
出せた。(Y・F)

報告者: 横川秀樹・福田洋子

△△△△△△△△△△△△△△△△

2002年8月の山行記録

自主山行

中央アルプス木曾駒ヶ岳～越百山 縦走 8月9日～12日

参加者

坂口理子・松本善行・金沢和則

行程

- 8/10 横山→西駒山荘→木曾駒ヶ岳
*頂上山荘幕地泊
- 8/11 木曾駒ヶ岳→宝剣岳→檜尾岳→空木岳→
南駒ヶ岳 *播鉢窪避難小屋泊
- 8/12 南駒ヶ岳→越百山→中小川避難小屋→
飯島

講習のポイント

横山～木曾駒ヶ岳(桂小場方面からの合流まで)
越百山～中小川避難小屋
ともに、エアリア実線ルートとしては、かなり手ご
たえアリ。

感想

8月9日(夜出)～8月10日

ケチのつき始めは、急行アルプスだった。日付違
いで発券されてしまい、指定券なのに座ることがで
きず、ほとんど眠れずに辰野につく。飯田線に乗り
換え伊那市駅へ。タクシーで今回の入山口、横山へ

向かう。

気を取り直して、入山開始!ところが、エアリア
実線ルートにもかかわらず、登山道が不明瞭。その
上、仕事道が入り組んでいて・・・なんと!林道で
ルートを失ってしまう。真剣にルートファインディ
ングをし、なんとか登山道に出たものの、これまた
ほとんど廃道状態の笹ヤブルート。こんな実線レ
ートあり!?と半泣きになったころ、ポコッと桂小場
からの別ルートと合流する。ようやく実線レ
ートらしい登山道になり、急な登り「胸突き八丁」あたり
まで、快調に飛ばす。が、このころから、急にみ
んな睡魔に襲われ出した。生返事のまっちゃん、黙
りこくる金沢さん、坂口に至っては、この後ほとん
ど記憶がなく・・・(以下省略)。教訓: 急行アル
プスでは意地でも睡眠を確保しましょう!

気がついたら頂上山荘のテン場だった。横山での
トラブルのおかげでしっかり 10 時間行動である。
風が強く寒いので、大慌てでテントを張る。食事
して酒飲んで、「4時起床ね」と固く誓いあってパタン
キュー。

8月11日

朝、寝坊した。みんな、誰かが目覚ましかけただ
ろうと思っていた。パタパタと準備をして、木曾駒
ヶ岳山頂へピストン。今日も風が強い。霧雨混じり
のため、宝剣岳は巻くことにして、ロープウェイ駅
方面へ向かう、と、急に人がわんさか湧いてきてび
っくりした。「ロープウェイで降りちゃおかなー」
という思いに抗いつつ、売店でうどんを食す。思い
っきり後ろ髪をひつつかまれながら、極楽平へ登り
返すが、いつもより数倍Gがかかったかと思われる
ほど足が重い。今日の核心はここだったかも知れな
い。再び稜線を歩きだすと、あいかわらず風が強い。
濃い霧で景色が見えないのが残念だ。いくつもの小
ピークを登ったり下ったり。木曾殿乗越を越えて、
空木岳へ。宝剣岳を巻いたアルパイトのおかげで、
今日も 10 時間行動だ。そそくさと山頂後にし、
播鉢窪避難小屋へ向かう。カール状に開けた緑の窪
地にポツンと立つ別天地だ。南アルプスの山々を正
面に見据え、絶好のロケーション!ああ、もっと早
くついてビールを一杯やりたかった!小屋には先行
さんが3パーティほどいたので、寝ている人の迷惑
にならないよう、外で炊事をする。それなりに酔っ
払って、8時就寝。「4時起床ね!」と誓い合う。今

日はしっかり目覚ましをセットした。

8月12日

朝、寝坊した。おかしいな、目覚ましをかけたはずなのに・・・と見ると、しっかり午後4時にかけてあった。朝一番の急登にあえぎながら、稜線へ登り返す。稜線は今日も風と霧。先頭をゆくまっちゃんの後姿が、朝霧の中に溶けていく・・・あ、なんだ、私が遅れてたのか。眠い目をこすりながら南駒ヶ岳へ登る途中、一度だけ霧が晴れ、南アルプス全山が見えた。鋸から、甲斐駒・仙丈、白根三山、塩見、荒川三山から聖まで。まるで絵巻物のように拡がり、やがて雲に隠れてしまった。谷あいには下山してからでは電波状態がよくないため、南駒ヶ岳山頂から携帯でタクシーを予約する。12:30で予約OK! 意気揚々と越百山へ向かう。それにしても、中央アルプスは、北や南と比べて人が少ない。木曾駒のロープウェイ周辺に集中しているのか。稜線の縦走路はアルペンムードたっぷりだし、アップダウンの連続で変化に富んでいて、なかなか面白い。こんなところで静かな山歩きができるなんてゼータク・・・などと考えているうちに越百山の山頂につく。越百と書いてコスモ。百舌名山を目指している方、101番目は越百山なんてどうでしょう? 越百山を後にして、いよいよ稜線もお別れ。あとは中小川避難小屋めざして、一気に下るだけ・・・ところが、この下りがなかなかスリリング! トラロープをつかんでの渡渉あり、梯子あり、はては、滝の落ち口のジャンプあり(落ちたら滝壺直行)!!・・・雨のときは、ちょっと、いや、かなり、厳しいのでは・・・でも、ここもエアリア実線ルートなのだ、一応。それでも何とか12時には下山。温泉グッズなどを用意しながら、タクシーを待つ。が、一向くる気配がない。飯島駅から20分ほどのはずなのに・・・と、エアリア裏のタクシー会社一覽を見ると、あっ! 予約した朝日交通は「飯島」じゃなくて「飯田」の会社じゃないか! こりゃ、来るわけがない。仕方なく林道を下り始める。1時間ほど歩いて、ようやく携帯がつながり、タクシーを呼ぶことができた。駅前の旅館で温泉に入り、スーパーで買出しして、飯田線で1次会、あずさで2次会を催しながら、無事、帰ってきたのでありました。

「のんびり縦走」のはずが、なぜか連日の10時間

行動!)。山歩き以外のところでトラブった感のある今回の山行ですが、なかなか行く機会のない「中央アルプス」をじっくり楽しむことができました。

ところで、山で無心に歩いていると、なぜか同じ音楽が頭の中をぐるぐる回るってこと、ありませんか? ちなみに、今回の下山時の各自のテーマ曲を申告したところ、まっちゃんが「インディジョーンズ」、金沢さんが「大脱走」(但し、最後「ベッカム〜!」とつくW杯イングランド応援バージョン)、坂口はモルツのCMソングでした。

報告者: 坂口理子



講習山行 (中級登山科)

ハヶ岳夏山登山教室 / ハヶ岳・横岳小同心クラックと中山尾根

8月23日~25日

参加者

茨木嘉道・矢沢悦子・新井元治・新井かよ子・末木俊之・長田幸子(本科生)
 沢口千鶴子(CU)
 金澤和則・工藤寿人(講師) 計9名

行程

8/24 茅野駅→美濃戸口~赤岳鉱泉~大同心稜~小同心クラック~横岳~硫黄岳~赤岳鉱泉
 8/25 赤岳鉱泉~中山乗越~中山尾根~日ノ岳~地藏尾根~赤岳鉱泉~美濃戸口~茅野駅

講習のポイント

取付きのルートファインディング
 4人パーティーのビレイシステム
 本チャンルートでの岩の登り方

感想

小同心クラック: 天気が悪く、8月のハガ岳とは思えない程寒かった。終始がスっていて周囲の位置関係がつかめない。大同心基部から足場の悪い草付をトラバースして、ハイマツをかき分けやっと小同心基部に出る。登攀準備をし、登攀の順番、ビレイシ

ステムの確認をして取付。ガバだらけではあるが、決して信用出来るホールドばかりとは思えない。慎重に登る。小同心はほぼ垂直に近く、トップの声が良く聞こえる。横岳山頂目前でアクシデント発生。まる抱え出来るぐらいの岩が3~4つと、人間が上から落ちて来た。軽傷ですんだものの、パーティーに動揺が走った。

中山尾根 前日の天気とは、うって変わったの晴天。中山乗越より取付きまでのルートファインディング。取付きから見る限り、小同心より岩が脆く見える。ほとんど土に成りかけの岩っぽい。前日のアクシデントもあり、更に慎重になる。ピッチを切る支点が廻り込んでいる為、トップの声がほとんど聞こえない。ザイルの張られる感触 一步上がってザイルの引かれるのを確認して登り始める。上部岩壁は中山尾根の核心部ではあるが、二日間を通した中で一番アルパインっぽく登れるところ。

どちらのルートも岩の脆さ、浮き石にはヒヤヒヤさせられましたが、これが冬になると、岩の表面が雪でパッキされアイゼンが効き易くなるんだとか。。。(ホンマかいな?) いつの日か、それを確かめに行かねば!

報告者: 長田幸子

△△△△△△△△△△△△△△

小同心の岩場を抜けて、横岳頂上への最後の簡単な壁に取り付く 前の広いテラスへの上がり際の岩が幅1mくらい剥がれたのでした。そこで落ちるなんて全然想像もしていませんでした。工藤講師から「岩は引くんじゃなく、上から押さえるようにつかむ。」とのご指摘でしたが、まさに思いっきり手で岩を引いてしまっていたのでした。それでそっくり返って背中から下に落ちてしまいました。(ザイルの引きと、背負ったザックのお陰で、上半身には全くダメージがありませんでした。右足首、右膝上、右腰打撲の軽症でした。)

「登り始めから5mくらいはグラウンドフォールの危険もあり特に岩を引かないように注意しないと危険だな。」と思った次第です.....

△△△△△△△△△△△△△△

講習山行(中級登山科) および継続した自主山行 夏山合宿/北アルプス・赤木沢集中 8月10日~15日

行程

- ・赤木沢集中(講習山行)
 - 11日 折立 → 薬師沢小屋 C1
 - 12日 C1 → 赤木沢出合 → 赤木沢遡行 → 赤木岳 → 黒部五郎小屋 C2
- ・赤木沢集中に継続した自主山行
 - ①黒部五郎小屋から黒部ダム
 - 13日 C2 → 雲の平 → 高天原山荘 C3 (①-1)
 - 14日 C3 → 赤牛岳 → 奥黒部ヒュッテ C4
 - 15日 C4 → 黒部ダム → 扇沢下山 (①-2)
 - ②黒部五郎小屋から新穂高
 - 14日 C3 → 雲の平 → 太郎平 C4
 - 15日 C4 → 折立へ下山
 - ③黒部五郎小屋から新穂高
 - 13日 C2 → 双六小屋 C3
 - 14日 C3 → 鏡平 → 新穂高に下山

参加者

- プラン① 矢沢悦子・遠藤末美・新井かよ子・横川秀樹(本科生)・沢口千鶴子(CU)・工藤寿人(講師)
- プラン② 浅子裕子・久野真由美(本科生)・平井真(CU)

編集局から

8月には、北アルプス・赤木沢集中夏山合宿に継続して自主プランが2つあったようです。日程と参加者のみ紙面に記載しておきました。原稿をいただけるようでしたら、来月号の紙面に掲載したいと思います。

その月の山行報告は、翌月の15日くらいまでに私のところに届くようお願いいたします。ご報告は無名山塾ホームページの山行報告入力フォームで送信されると自動的に編集局に登録されますのでご利用ください。ただし文字化けして送信されるケース

C-upワールド 2002年8・9合併号

もあるようです。丸数字、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳなどのローマ数字などの文字（機種依存文字？）が入力されていると私のパソコンに文字化けして送信されるようです。マック・ウィンドウズパソコンの文字コードの違いによるものでしょうか？ ちなみに私のパソコンは Gateway のウィンドウズパソコンです。原稿を頂いて暫くしてから気づくケースもあります。その場合には確認のメールなどを送信します。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

アドレス

C-UPワールド

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/>

無名山塾

<http://www.sanjc.com>

山塾サポート

RXL13656@nifty.ne.jp

Phone 03-3941-3481

Fax 03-3941-3482

iモード

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/i.htm>